

沖縄空手振興ビジョン ロードマップ

(第2期：令和5年度～令和9年度)

令和5年3月
沖縄県

県民のみなさまへ

「平和の武」肝に染みてい
世界に伝えたい 沖縄空手



はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら

沖縄が世界に誇る伝統文化である沖縄空手の「保存・継承」「普及・啓発」「振興・発展」を図るため、県、空手関係団体、経済界等が一体となって、20年後の目指すべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）が平成30年3月に策定されました。

このビジョンで定めた将来像の実現に向けて、平成30年度から令和4年度までの5年間を対象期間とする各種施策と具体的な工程等を示した「第1期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」を策定し、期間中官民が一体となって施策取組を展開してまいりました。

沖縄空手界においては、沖縄空手の統一組織である沖縄伝統空手道振興会が令和3年3月に一般社団法人化し、施策の推進力がより高まっております。

また、令和4年8月には第2回沖縄空手世界大会及び第1回沖縄空手少年少女世界大会の同時開催、同年11月には第7回世界のウチナーンチュ大会と合わせて空手の日記念演武祭を開催するなど、国内外へ「空手発祥の地・沖縄」の発信強化に資する取組を進めてまいりました。

このほか、東京2020オリンピック・パラリンピックでの選手支援をはじめ、沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組が着実に推進されています。

一方、沖縄空手界を取り巻く状況を見ると、県内道場では門下生の減少、後継者不足、道場の運営基盤の脆弱さ等のさまざまな課題があります。また、新型コロナウイルス感染症拡大により沖縄空手界は大きな影響を受けました。

これらの状況を踏まえて、令和5年度から令和9年度までの5年間を対象期間として「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」（以下「第2期ロードマップ」という。）を策定しました。

第2期ロードマップでは、これまで築いてきた基盤である「保存・継承」、「普及・啓発」、「振興・発展」の3つの柱を掲げ、沖縄空手のポテンシャルを活かして施策取組を強力に推進させてまいりたいと考えております。

取組推進にあたっては、空手関係団体をはじめ、県民と経済界、行政等が認識を共有し、個別の施策に対して一体となって戦略的に取り組むことが重要となります。県民を含め、関係者の皆様におかれましては、沖縄空手の振興のため、御理解と御協力

をいただきますようお願い申し上げます。

たげーに ちぼてい いちゃびらなやーさい
ゆたさるぐとう うにげー さびら

令和5年3月

沖縄県知事 玉城デニー

目 次

I 総論

1 沖縄空手振興ビジョンについて

- (1) 策定の背景 1
- (2) 基本理念 1
- (3) めざすべき将来像 2

2 ビジョンを実現するための軸となる成果指標の設定 3

II 沖縄空手振興ビジョンロードマップ

1 沖縄空手振興ビジョンロードマップの目的等

- (1) ロードマップの目的及び主な検討事項 4
- (2) ロードマップの期間 5
- (3) ロードマップの位置づけ 5

2 基本戦略 6

3 ロードマップ

- (1) 「保存・継承」に関する施策展開 10
 - ① 技及び精神性の継承 10
 - ② 沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携 13
 - ③ 公認段位制度 16
 - ④ ユネスコ無形文化遺産への登録等 18
 - ⑤ 学術研究・体制 20
- (2) 「普及・啓発」に関する施策展開 22
 - ① 空手発祥の地・沖縄 22
 - ② 武道教育と空手の活用 25
 - ③ 競技と伝統 28
 - ④ 競技力の強化 31

(3) 「振興・発展」に関する施策展開	32
① 振興・発展の全体戦略	32
② 人づくり	35
③ 情報通信の活用	38
④ 産業振興	40

4 進捗管理

(1) ロードマップの推進体制	43
(2) 進捗管理	43

【資料編】

1 「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」策定の経緯	1
2 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会委員及び 部会委員名簿	2
3 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会及び 各部会組織図	4
4 沖縄空手振興ビジョンロードマップ一覧表	5

I 総論

1 沖縄空手振興ビジョンについて

(1) 策定の背景

沖縄を発祥の地とする空手は、厳しい鍛錬を通して強靱な身体と不屈の精神を培うとともに、心を磨き礼節を重んじる「平和の武」として今日まで受け継がれ、現在では世界中に、1億3千万人ももの空手愛好家がいるといわれるほど普及している。

一方、沖縄空手は、平成28年度に実施した実態調査において、門下生の確保、後継者の不足、海外から来訪する空手愛好家への対応、「空手発祥の地・沖縄」の認知度の低さ、空手専門者の少なさなどの課題が浮き彫りとなった。

また、空手が正式種目として採用された2020年東京オリンピック開催にあたり、空手発祥の地としての沖縄は、世界中からの注目度が、今後益々高まることが見込まれ、沖縄が世界に誇る伝統文化である空手の保存・継承・発展を図る取り組みを戦略的に行うために、県、空手関係団体、経済界等の様々な分野が一体となって、20年後のめざすべき将来像を描いた沖縄空手振興ビジョン（以下、「ビジョン」という。）を平成30年3月に策定した。

(2) 基本理念

ビジョンでは、必要な施策を推進する際の根幹であり、軸となる基本理念のもととなる **【保存・継承】** **【普及・啓発】** **【振興・発展】** の3つのキーワードを設定し、このキーワードをもとに各分野における基本理念を設定している。

【保存・継承】

- 先人により創造され生まれ受け継がれてきた精緻な技と平和の武としての精神性を保存する。
- 後継者を育成し空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求する精神性を継承する。

【普及・啓発】

- 県民が世界に誇れる伝統文化として沖縄を発祥の地とする空手の価値を認識している。
- 沖縄空手のブランド化に向けて伝統空手を確実に継承しつつ競技空手についても推進し子ども達に夢を描かせ、世界に向けて「空手発祥の地・沖縄」を普及・啓発する。

【振興・発展】

- 空手家が経済的に自立し世界中の人々から尊敬されるとともに、沖縄は空手に関する夢が叶い殆どの課題が解決される「空手の聖地」となっている。
- 空手を目的とした交流人口の拡大が、新エンジンとなって沖縄経済の成長に資するとともに、自我作古の気概をもって空手界及び産業間が連携し振興・発展に取り組む。

(3) めざすべき将来像

ビジョンでは、基本理念で定めた3つのキーワードのもとに、めざすべき将来像として次の3つを設定している。

【保存・継承】

空手の型に秘められた精緻な技と平和を希求し礼節を重んじる精神性が正しく次世代へ受け継がれている。

【普及・啓発】

空手を取り巻く環境変化を的確に捉えた施策の推進により世界の空手家が「空手発祥の地・沖縄」を認識している。

【振興・発展】

空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地・沖縄」が確立されて空手による産業振興が図られている。

これらの3つの将来像の実現に向けて具体的な工程等となる「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」を策定し、県、空手関係団体、経済界等が一体となってそれぞれが重要な役割を担いながら戦略的に必要な施策に取り組む。

2 ビジョンを実現するための軸となる成果指標の設定

ビジョン実現に向けて、沖縄空手の保存・継承・発展を図るため各種施策に取り組むにあたり、めざすべき将来像を成果指標として可視化する必要がある。

その際、軸となる項目として「県外・海外からの空手関係者来訪数」、「県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率」、「県内道場数」、「県内道場の門下生数（平均）」の4つの項目を設定し、沖縄空手振興ビジョンにおけるめざすべき将来像の実現を図るための成果指標とする。

項目	現状	1年後 (令和5年度)	2年後 (令和6年度)	3年後 (令和7年度)	4年後 (令和8年度)	5年後 (令和9年度)
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%
県内道場数	364道場 (令和3年度)	367道場	370道場	373道場	376道場	379道場
県内道場の門下生数（平均）	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人

Ⅱ 沖縄空手振興ビジョンロードマップ

1 沖縄空手振興ビジョンロードマップの目的等

平成30年3月に、沖縄が世界に誇る伝統文化である空手の保存・継承・発展を図る取り組みを戦略的に行うため、県、空手関係団体、経済界等の様々な分野が一体となって委員会等で議論を重ね、めざすべき将来像となる沖縄空手振興ビジョンを策定した。

ビジョンで定めた「保存・継承」、「普及・啓発」、「振興・発展」の各分野における基本理念のもと、20年後のめざすべき将来像の実現に向けて、関係機関が密な連携を図り認識を共有するとともに、各種施策を計画的かつ能率的に実施するため、平成30年度にビジョンの具体的な工程等となる「第1期沖縄空手振興ビジョンロードマップ（以下、「第1期ロードマップ」という。）」を策定した。

そして、令和5年度からスタートする「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ（以下、「第2期ロードマップ」という。）」では、7つの基本戦略（①道場運営の基盤強化、②後継者等の育成、③文化的価値の深化、④「空手発祥の地・沖縄」の発信強化、⑤競技と伝統の発展、⑥振興会の更なる基盤強化、⑦空手関連産業の創出）を立て、施策展開の方向性を示すことにより、効率的・効果的に取組を推進する。

また、県、一般社団法人沖縄伝統空手道振興会（以下、「振興会」という。）及び空手関係団体、道場主、観光業界等関係団体が連携し、共通認識をもって各種取組を図ることで、空手に関わるものすべてが将来像の実現を享受できるような仕組みを構築している。

ロードマップ策定にあたっては、策定委員会及び3部会に加え、30代、40代を中心とした次世代を担う空手家による部会を設置し、自らが指導者として後継者育成に臨むことを想定した視点からの検討も行っている。

（1）ロードマップの目的及び主な検討事項

ロードマップでは、ビジョンで定めためざすべき将来像の実現に向けての取組を計画的かつ確実に実施するため、それぞれが担う役割、スケジュールを明確化するとともに、定量・定性化した成果指標を設定して、目標を可視化することとしている。

ロードマップの策定にあたっては、実態調査及びビジョン検討時に洗い出された課題等に対して、「保存・継承」、「普及・啓発」、「振興・発展」の各分野において検討を行い、4つの主な成果指標を軸として各分野における成果指標を設定する。

(2) ロードマップの期間

第2期ロードマップの対象期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とする。

(3) ロードマップの位置づけ

本ロードマップは、20年後を見据えた沖縄空手振興ビジョンの具体的な工程等としての中期的な位置づけとなることから、同ビジョンと同様に沖縄21世紀ビジョン及び新・沖縄21世紀ビジョン基本計画、沖縄県観光振興基本計画、沖縄県スポーツ推進計画、沖縄県教育振興基本計画と基本的な考え方、方向性に関して整合性を図るものとして策定する。

2 基本戦略

ロードマップで策定する目標達成のためには、空手関係者をはじめ、県及び経済界等が認識を共有し、個別の施策に対して密に連携を図り戦略的に取り組むことが重要である。

施策取組の中心的役割を担う沖縄伝統空手道振興会が令和3年3月に法人化（一般社団法人化）されたことで、施策取組を推進する体制が構築されており、第2期ロードマップでは、沖縄県、振興会を中心に、関係機関と連携を図りながら、戦略的に取組を推進する。

また、第2期ロードマップでは基本理念（「保存・継承」「普及・啓発」「振興・発展」）のもとに次のとおり7つの基本戦略を立て、施策展開の方向性を示すことで効率的な取組の推進を図る。

（1）道場の運営基盤強化

沖縄空手の保存・継承を担う道場の運営基盤の強化に向けては、道場の現状と課題の適切な把握のもと、門下生の増加、後継者等の人材育成など、総合的な道場支援策を検討する。

また、道場支援については、振興会が中心的な役割を担う取組が多いことから、同会の組織運営基盤の強化を図り、同会を通じた県内道場への支援策を検討し実施する体制を構築する。

（2）後継者等の育成

後継者等の育成に資する施策取組を着実に進めることとし、伝統的で適切な指導方法を検討し、指導体系書等として取りまとめることで、指導体制の構築とともに、国内外の空手愛好家が沖縄空手に直に触れ、正しい鍛錬方法等を学ぶことのできる機会を創出する。

流派・道場間の連携促進等を通して伝統の継承に資する取組を推進する。

また、公認段位制度については、各流会派、団体、道場の現状を尊重しながら、制度創設を慎重に検討する。

（3）文化的価値の深化

沖縄空手の保存・継承とともに、文化的価値の理解を更に深化させるため、

県指定無形文化財保持者の追加認定、ユネスコ無形文化遺産登録の実現に必要とされる提案内容の検討及び提案に関わる歴史・文化的価値等に関する学術研究を着実に進める。

博物館相当施設として指定されている沖縄空手会館展示施設において学芸員を配置し、資料の収集・分析、企画展及び巡回展等の活動の充実、来館者サービスの向上を図る。また、高等教育機関と連携した研究活動の取組を推進する。

これらにより、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図る。また、ユネスコ無形文化遺産登録に向けた気運醸成のための情報発信強化とともに、幅広い関係者を巻き込んだ訴求力の高い方策を検討し、登録に向けた取組を段階的に進める。

(4) 「空手発祥の地・沖縄」の発信強化

「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上や沖縄空手の魅力発信のため、沖縄空手世界大会を定期開催するとともに、国内外の空手愛好家及び県民を対象とした沖縄空手の演武披露及び沖縄空手セミナー等を実施する。

また、武道教育について、空手道研究指定校の指定を継続して行うとともに、県内小・中・高等学校及び保育園等への沖縄空手の指導者派遣を推進するなど、行政、空手団体、学校等の関係機関との連携のもと、広く子どもや県民が空手に触れることのできる環境作りを推進し、県内での沖縄空手の普及・啓発を図る。

(5) 競技と伝統の発展

競技空手と伝統空手の発展に向けては、引き続き、競技空手と伝統空手を世界の空手愛好家を牽引する両輪として発展させるため、沖縄空手世界大会の定期開催に取り組むとともに、競技大会等のスポーツコンベンションの誘致・開催に取り組む。

また、競技力の向上に係る事業等を通じて支援を継続的に実施する。

(6) 振興会の更なる基盤強化

振興会において、自主事業や行政機関等からの受託事業等に取り組むことで

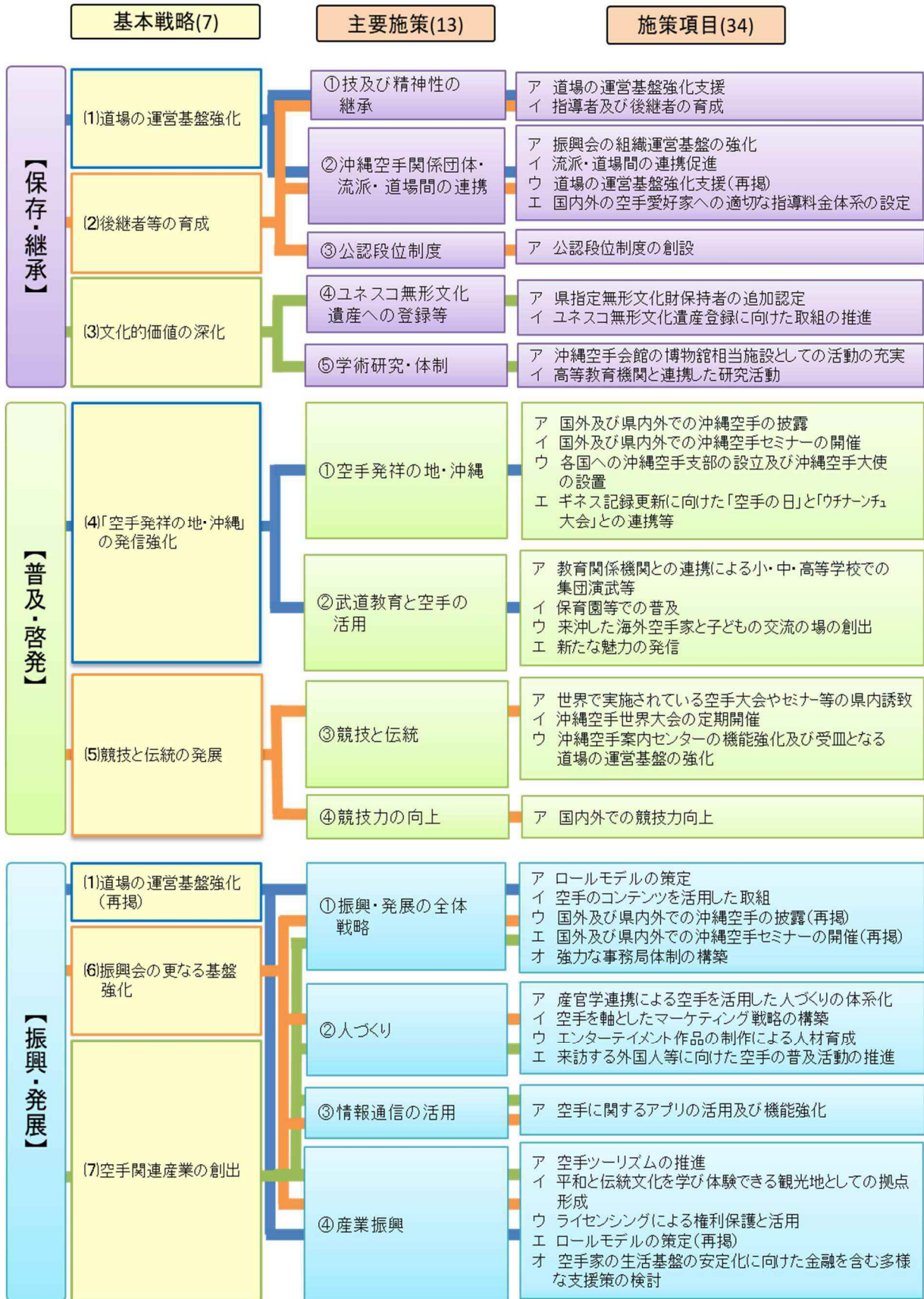
沖縄伝統空手道振興会の財政基盤と事務局体制の強化を図り、沖縄空手の保存・継承等に資する取組の推進、沖縄空手案内センターの機能強化、沖縄空手に関連する産業振興の仕組みづくりに取り組む。

(7) 空手関連産業の創出

沖縄空手に関連する産業振興について、空手関係者をはじめ、観光業、商工業など様々な分野の関係者と連携して検討を進め、相乗効果を発揮できる取組を推進します。空手ツーリズムの推進や、沖縄空手会館近隣にあるおきなわ工芸の杜、旧海軍司令部壕（海軍壕公園）と連携して平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成に取り組む。

また、振興会においては、県、関係団体と調整しながらライセンス（商標）を取得しその活用を検討する。

【図】 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ基本戦略イメージ



3 ロードマップ

(1) 「保存・継承」に関する施策展開

沖縄空手の保存・継承を図るため、振興会や県内道場の運営基盤の強化を図り、自立的な運営に向けた仕組みを確立するとともに、ユネスコ無形文化遺産への登録、沖縄空手世界大会の定期開催、公認段位制度の検討等に繋げる必要がある。

また、振興会が中心的な実施主体になると想定される取組が多いことから、同会の組織運営基盤の強化に優先的に取り組み、その上で、道場の運営基盤の安定強化や継承プログラムの策定、指導体系書等を活用した指導体制の確立といった取組を段階的に実施する必要がある。

① 技及び精神性の継承

県内の道場では、門下生の確保、後継者の不足、海外から来訪する空手愛好家への対応等の課題があることから、以下の取組を実施する。

これにより、県内の道場数、門下生数、外国人受入率、県内道場におけるセミナー開催率の増加等を図る。

ア 道場の運営基盤強化支援

振興会を実施主体とした道場の運営基盤強化支援に向けて、ライセンスビジネス、空手ツーリズムなど空手界及び産業界が連携した取組による自主事業や行政機関等からの受託事業を実施するなどし、振興会における組織運営及び財務基盤の安定を図るとともに、道場支援に資する事業等を展開する。

また、これらの収益による適正な水準の内部留保を確保し、保存・継承等に係る活動の原資とすることを目指す。

令和5年度から令和9年度にかけて、ロールモデル（模範的な生活設計）の検証（適切な月謝料金の検証を含む）による道場運営の強化策をはじめ、門下生の増加、多様なニーズに対応した魅力ある指導体制の確立、指導者や後継者となる人材の育成、マーケティングや法人化に関する専門家による指導・助言など、県内道場に対する総合的な支援策を検討する。

これらにより具体化した取組を令和6年度以降に段階的に実施する。

支援策の検討にあたっては、必要に応じて、振興会、県及び有識者等の関係者で構成するワーキンググループ等を設置する。

イ 指導者及び後継者の育成

令和4年度から令和5年度にかけて、国内外の空手愛好家に対する指導体制を検討し、指導体系書や解説書の策定を行う。検討にあたっては、指導内容へしまくとぅばを取り入れるなど、伝統文化としての沖縄空手の魅力を併せて伝えることで、来訪する空手愛好家の満足度の向上に繋げる。令和6年度以降も、適宜、多様なニーズにあわせた指導体制を確立するために必要な指導体系書や解説書を策定する。

振興会が県と連携して、後継者等の人材育成や世界大会の審判技術の向上に資する取組として、道場間の交流等を目的とした交流稽古を実施する。また、必要に応じて後継者等への伝統の継承に資するセミナー等の実施を検討する。令和5年度から交流稽古等について、振興会及び県等の関係者で取組内容を検討する。

振興会が県と連携し、関係機関による十分な調整のもとで、道場の運営支援に資する継承プログラムの策定スキームや内容を検討し、令和9年度までに策定する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体	
① 技及び精神性の継承							
ア 道場の運営基盤強化支援	自主事業の展開等による振興会の組織運営基盤の強化					空手関係団体 県(空手振興課)	
	総合的な道場支援(運営基盤の安定化策)の検討						
	道場支援策の段階的な実施						
イ 指導者及び後継者の育成	指導体系書等の検討・策定	適宜、必要に応じて策定					
	後継者育成等に向けた取組検討・実施						
	関係機関による調整、継承プログラムの策定スキームや内容の検討				継承プログラム策定		

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県内道場数	364道場 (令和3年度)	367道場	370道場	373道場	376道場	379道場	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人	〃
県内道場の外国人受入率	34% (平成30年度)	35%	36%	37%	38%	39%	〃
県内道場でのセミナー開催率	25% (平成30年度)	27%	29%	31%	33%	35%	〃

② 沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携

振興会について、財政基盤や事務局体制の拡充強化、自主的な組織活動を行うことが求められている。

また、県内道場における運営資金の確保等が課題となっていることから、以下の取組を実施する。

これにより、振興会や県内道場の運営基盤を確立するとともに、県内道場の振興会加入率の増加等を図る。

ア 振興会の組織運営基盤の強化

振興会における財務基盤の安定に向けた取組として、ライセンスビジネス、空手ツーリズムなど空手界及び産業間が連携した取組による自主事業や行政機関等からの受託事業を実施するなどし、振興会における組織運営及び財務基盤の安定を図るとともに、道場支援に資する事業等を展開する。また、これらの収益による適正な水準の内部留保を確保し、保存・継承等に係る活動の原資とすることを目指す。

法人化後の振興会においては、同会の活動の方針や状況をはじめ必要な情報を全ての会員が共有できる連絡体制を構築し、その参画のもとで継続的に組織運営体制の改善を図るものとする。

イ 流派・道場間の連携促進

振興会が県と連携して、後継者等の人材育成や世界大会の審判技術の向上に資する取組として、道場間の交流等を目的とした交流稽古を実施する。また、必要に応じて後継者等への伝統の継承に資するセミナー等の実施を検討する。令和5年度から交流稽古等について、振興会及び県等の関係者で取組内容を検討する。

振興会に加入していない未加入道場の実態等に関する情報収集を行い、当該未加入道場を含めた全道場主会の役割や権限を整理した上で、設置を検討する。将来的に、全道場主会を設置し、定期的な開催を通じて幅広い意見交換を行うことにより、振興会の意思決定の強化と未加入道場の加入促進等を図る。

ウ 道場の運営基盤強化支援（再掲）

振興会を実施主体とした道場の運営基盤強化支援に向けて、ライセンスビジネス、空手ツーリズムなど空手界及び産業界が連携した取組による自主事業や行政機関等からの受託事業を実施するなどし、振興会における組織運営及び財務基盤の安定を図るとともに、道場支援に資する事業等を展開する。

また、これらの収益による適正な水準の内部留保を確保し、保存・継承等に係る活動の原資とすることを目指す。

令和5年度から令和9年度にかけて、ロールモデル（模範的な生活設計）の検証（適切な月謝料金の検証を含む）による道場運営の強化策をはじめ、門下生の増加、多様なニーズに対応した魅力ある指導体制の確立、指導者や後継者となる人材の育成、マーケティングや法人化に関する専門家による指導・助言など、県内道場に対する総合的な支援策を検討する。

これらにより具体化した取組を令和6年度以降に段階的に実施する。

支援策の検討にあたっては、必要に応じて、振興会、県及び有識者等の関係者で構成するワーキンググループ等を設置する。

エ 国内外の空手愛好家への適切な指導料金体系の設定

沖縄空手案内センターで設定している指導料金体系については、振興会等と連携し、県内各道場に対して十分な周知を図るとともに、引き続き、同センターにおいて、県内や国内外からの情報収集を継続的に行いながら、県や振興会等の関係者との調整を図りつつ、必要に応じて適切な水準へ見直していく。

また、将来的に、当該指導料金体系において、指導者の空手の価値を適切に評価し反映できるよう、今後創設が見込まれる振興会版の継承プログラムの受講履歴や公認段位の取得等を客観的な指標として、これらを料金体系と連動させることも視野に検討を進めていく。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
②沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携						
ア 振興会の組織運営基盤の強化	継続的な組織運営体制の改善					空手関係団体 県(空手振興課)
	自主事業の展開等による振興会の組織運営基盤の強化					
イ 流派・道場間の連携促進	後継者育成等に向けた取組検討・実施					
	全道場主会設置を検討					
ウ 道場の運営基盤強化支援(再掲)	自主事業の展開等による振興会の組織運営基盤の強化					
	総合的な道場支援(運営基盤の安定化策)の検討					
	道場支援策の段階的な実施					
エ 国内外の空手愛好家への適切な指導料金体系の設定	必要に応じた指導料金体系の見直し、県内道場に対する指導料金体系の周知					

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
振興会の運営基盤の確立 (自主事業の実施件数)	未実施 (令和4年度)	1件	2件	3件以上	3件以上	3件以上	
「空手の日」記念演武祭などイベントを通じた道場主等の交流機会の創出	2回 (令和4年度)	開催 (年1回以上)	開催 (年1回以上)	開催 (年1回以上)	開催 (年1回以上)	開催 (年1回以上)	
県内道場の振興会加入率	71.4% (令和3年度)	73%	75%	77%	79%	81%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
振興会による道場支援件数	未実施 (令和4年度)	8件	8件	8件	8件	8件	
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より

③ 公認段位制度

沖縄空手における技量等を確認するための客観的指標となる新たな段位制度について、各流派や道場等が独自に段位を発行している現状を尊重しつつ、以下のとおり検討する。

これにより、世界でも権威ある段位授与制度の確立を図る。

ア 公認段位制度の創設

令和5年度から県や振興会等の関係機関の連携のもと、広く段位に関する情報収集を行う。令和6年度から令和7年度にかけて関係機関による意見交換の場を設け、沖縄空手界で新たな段位制度を創設する趣旨や必要性、その効果等について意見交換を行う。

これらを踏まえ、令和8年度から令和9年度にかけて、関係機関によるワーキンググループ等を設置し、想定される実施機関、段位の審査方法及び審査 規程、発行の方法など、具体的な制度内容の検討を通して、海外を含めた沖縄空手の段位のあり方、取組の方向性を整理する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
③公認段位制度						
ア 公認段位制度の創設	関係機関からの情報収集	関係機関による意見交換		取組の方向性の整理(ワーキンググループによる検討等)		空手関係団体県(空手振興課)

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
公認段位制度の創設	未実施 (令和4年度)	関係機関からの情報収集	関係機関による意見交換の実施	関係機関による意見交換の実施	ワーキンググループによる検討等の実施	ワーキンググループによる検討等の実施	

④ ユネスコ無形文化遺産への登録等

沖縄空手の継続的な保存継承活動等を行うとともに、文化的価値の向上を図るため、以下の取組を実施する。

ア 県指定無形文化財保持者の追加認定

県教育庁文化財課を主体として県指定無形文化財保持者の追加認定について、令和5年度は、県の関係課により取り組みの方向性に関する意見交換を行う。

その上で令和6年度から、県教育委員会において、鍛錬を通して体得した技を踏まえ適切に検討し、保持者の追加認定を行う。

イ ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組の推進

ユネスコ無形文化遺産登録の推進を図るため、県と空手関係団体をはじめ、経済界等の関係機関が連携し、沖縄空手に関するイベントや広報を積極的に展開し、県民及び空手界の気運の醸成に向けて継続的に取り組む。

併せて、令和2年度から設置された沖縄空手ユネスコ登録推進協議会を中心として、県や空手関係団体等が連携を図り、有識者等で構成する委員会または空手関係者並びに学識経験者によるワーキングチームにより歴史資料や参考文献の洗い出し、県内の実態や国内外の事例に関する調査等を実施しながら、沖縄空手の定義と特徴、保護措置の取組状況、生活文化としての位置づけ、登録により期待される効果など、ユネスコ無形文化遺産登録に向けて必要とされる提案内容を検討する。

また、検討にあたっては、同協議会に設置された流派連絡会並びに学術研究連絡会や県が主催する沖縄空手アカデミー等を意見交換の場として活用し、各流派の歴史や型、地域の習慣や儀礼、行事、集落において伝承される武術的身体表現等について、現状を踏まえつつ、幅広く十分な議論を行い考え方を整理する。

その検討結果については、早期に国の関係省庁へ提案を行う。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
④ユネスコ無形文化遺産への登録等						
ア 県指定無形文化財保持者の追加認定	関係機関による意見交換	適切な認定の検討	保持者の適切な追加認定			県(教育庁文化財課)
イ ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組の推進	提案内容の検討 国の関係省庁との調整 登録に向けた県民気運の醸成・啓発活動 (沖縄空手イベント開催事業、沖縄空手普及・啓発事業、沖縄空手ユネスコ登録推進事業など)					県(空手振興課) 空手関係団体等

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ
県民の気運醸成及び普及啓発のためのイベント参加人数	11,500人 (平成30年度)	12,100人	12,800人	13,500人	14,200人	15,000人	空手振興課調べ

⑤ 学術研究・体制

国内外からの来館者向けに沖縄空手会館の資料室の充実を図るとともに、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上やユネスコ無形文化遺産登録の推進等のため、空手の歴史的・文化的価値に関する学術的水準を高める必要があることから、以下の取組を実施する。

これにより、空手会館の展示施設閲覧者数の増加を図るとともに、沖縄空手の学術研究における高等教育機関との連携を推進し、研究者の育成等に繋げる。

ア 沖縄空手会館の博物館相当施設としての活動の充実

沖縄空手会館の展示施設において、県内や国内外の調査及び資料収集を積極的に推進するとともに、収集した資料の分析を行い、研究成果の発表や企画展及び巡回展を継続的に実施するため、学芸員を配置する。併せて、海外からの来訪を促進するためのコンテンツの多言語化を進めていく。

こうした取組の一環として、県では、沖縄空手研究者に研究成果の発表の機会を設けるため、平成30年度に沖縄空手アカデミーを設置し、定期的に報告会を開催している。今後、県民向けの討論会の開催や沖縄空手ユネスコ登録推進協議会に設置される流派連絡会及び学術研究連絡会での勉強会の実施など、当該取組の拡充を図りながら、ユネスコ無形文化遺産登録等に向けた学術研究を推進する。

イ 高等教育機関と連携した研究活動

県を実施主体として、令和5年度から令和7年度にかけて、高等教育機関など連携先として想定される関係機関の洗い出しを行い、当該関係機関との調整を実施し、連携内容やスキーム等を整理した上で、令和8年度以降連携に向けて検討する。

当該取組を継続的に実施していくことで、高等教育における沖縄空手に関する学術研究の活性化を図り、国内外の大学での空手の専門学科又は学部の設置を促進する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
⑤学術研究・体制						
ア 沖縄空手会館の博物館相当施設としての活動の充実	収集した資料の分析、研究成果の発表や企画展を継続的に実施					県(空手振興課)
イ 高等教育機関と連携した研究活動	関係機関の洗い出し、調整			高等教育機関等と連携した取組の実施		

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
沖縄空手会館の展示施設観覧者数	3,280人 (令和3年度)	8,400人	10,900人	13,500人	14,800人	16,300人	空手振興課調べ
高等教育機関との連携の推進	未実施 (令和4年度)	検討	検討	検討	1機関 (連携機関数)	1機関 (連携機関数)	

(2) 「普及・啓発」に関する施策展開

沖縄空手の普及・啓発を図るため、様々なイベントや広報活動を通じて国内外へ「空手発祥の地・沖縄」を強力に発信するとともに、世界と沖縄を繋ぐネットワークの構築により連携・交流を強化する必要がある。

また、学校や保育園等における空手の積極的な導入を図るほか、競技空手と伝統空手を世界の空手愛好家を牽引する両輪として発展させていく必要がある。

これらの取組を総合的に展開することで、沖縄空手のブランディングを図る。

① 空手発祥の地・沖縄

「空手発祥の地・沖縄」の普及・啓発に向けて、国内外における空手関係者以外の人々への周知等が課題であることから、県内外でのイベント開催や広報活動等の取組を行う。

また、国内外の空手愛好家の来訪意欲を高めるため、国内外でのセミナー等の開催や世界と沖縄を繋ぐネットワークを構築することにより、「空手発祥の地・沖縄」の認知度の向上を図り、県外・海外から空手ツーリズムによる来訪を促進する。

ア 国外及び県内外での沖縄空手の披露

県を実施主体とした沖縄空手のイベントや広報に係る事業を通じて、国外及び県内外で開催される物産展や旅行博等のイベント会場において、沖縄の自然、音楽、食等の文化資源と連携して空手の演武を披露する。

また、県内空手家の国外及び県内外への派遣やSNS等での発信など「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図り、国内外の空手愛好家の来訪意欲を高める取組を行うことによって、空手ツーリズムを促進させる。

イ 国外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催

県や県内空手関係団体を実施主体として、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上及び国内外の空手愛好家の来訪意欲を高めるため、国外及び県内外でセミナーを実施する。

また、県と振興会が連携して、指導者及び後継者の育成、県内道場との交流を目的とした合宿等でのセミナーを県内各地で実施する。県民を対象とした沖縄空手の歴史、精神性や実技を学ぶセミナー等を実施することにより、

県民が沖縄空手に接する機会を増やす取組を行う。

現在、県が開催しているセミナー等については、将来的に振興会の収益事業として実施するなど、自主的な取組を推進する。

ウ 各国への沖縄空手支部の設立及び沖縄空手大使の設置

令和5年度は実態調査等により把握した海外支部の状況を分析し、令和6年度から令和9年度にかけて、県や振興会等の関係機関による調整を行い、実施主体をはじめ、複数の流会派をまとめた連絡会など、具体的な支部の組織形態や、沖縄空手大使との兼務も含めた代表者の位置づけ及び役割等について、海外の実情を踏まえ慎重に検討する。

令和9年度から県内各流会派とネットワークを構築し活動している道場等に関する調査を実施し、候補となる関係先の洗い出しを行う。

エ ギネス記録更新に向けた「空手の日」と「ウチナーンチュ大会」との連携等

「空手の日」は、「第8回世界のウチナーンチュ大会」や「沖縄空手世界大会」との連携を図り、空手演武のギネス記録更新に向けた取組を行う。県の関係課や振興会等の関係機関による調整を行った上で実行委員会の設置等を行い、準備を進める。

また、令和5年度以降においても、様々なイベントとの連携を視野に、同様の取組を継続して推進する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
①空手発祥の地・沖縄						
ア 国外及び県内外での沖縄空手の演武披露	沖縄空手に関するイベント開催、広報事業等の継続的な実施					空手関係団体 県(空手振興課)
イ 国外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催	国外及び県内外での継続的なセミナー実施(県、振興会など) ※県内セミナーについては振興会の自主的な取組の比率を段階的に高める。					
ウ 各国への沖縄空手支部の設立及び沖縄空手大使の設置	調査等により海外支部の状況を把握	関係機関による調整			候補洗い出し	
カ ギネス記録更新に向けた「空手の日」と「ウチナーチユ大会」との連携等	取組の継続					

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県内における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	88.5% (令和4年度)	90.0%	91.0%	92.0%	94.0%	96.0%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%	〃
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ

② 武道教育と空手の活用

学校及び保育園等における普及を推進するため、以下の取組を実施する。また、県民が空手に触れる機会を創出することにより、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上、門下生数の増加を図るとともに、県民、児童生徒等を対象として空手愛好家の裾野の拡大を図る。

ア 教育関係機関との連携による小・中・高等学校での集団演武等

県内の小学校、中学校、高等学校の運動会や体育祭等への集団演武等の導入を推進するため、実施主体となる県及び市町村の密接な連携のもと、外部指導者の活用を継続的に図るとともに、空手道推進校を中学校・高等学校持ち回りで毎年指定し、学校現場における普及を図る。

また、学校に道場所在地のリスト（道場マップ）を作成して配布することによって道場の門下生数増加を図り、道場と学校が連携して普及に資する取組を行う。

イ 保育園等での普及

県において、令和5年度から関係機関への情報収集を行い、園児への指導希望がある保育園、認定こども園、幼稚園に対して指導者を派遣する等普及に取り組む。また、必要に応じて保育士等園関係者向けに園児への指導のための研修会を開催する。保育園等で指導する空手指導者は、園児が体操感覚で空手ができるような型を創作して普及を図る。

保育園等が近隣の空手道場を把握できるように道場所在地のリスト（道場マップ）を作成して保育園等に配布することにより、道場と保育園等が連携して普及に取り組むことができるようスキーム作りを実施する。

ウ 来沖した海外空手家と子どもの交流の場の創出

令和5年度から令和7年度にかけて、県、空手関係団体、教育機関等の関係機関による調整を行い、実施主体をはじめ、来訪した海外空手愛好家の満足度を高め、本県児童生徒の国際性や語学力の向上等に繋がる取組スキームを検討する。

その進捗に応じて、令和6年度から令和8年度の間で、県内の学校や地域の自治会等のニーズを把握し、県内で開催される大会やセミナーの実施主体等と調整の上で海外空手家とのマッチングを図るなど、先行的なモデル事業を実施する。

当該モデル事業の成果をもとに、必要な交流プログラム等を整備した上で、令和7年度以降国際交流を継続的に展開する。

エ 新たな魅力の発信

令和5年度から令和7年度にかけて、県や空手関係団体等の関係機関による調整を行い、県内での普及に関する課題やニーズを整理しつつ、空手愛好家の裾野を拡げる取組を検討する。

全県的な普及を図るため、普及型にしまくとぅばを取り入れるなど沖縄らしい健康体操（ラジオ体操）として発信することにより、県民が生活の一部として空手に接する機会を増やす取組について、令和6年度から検討を行う。

令和6年度から令和9年度の間で、事業終了後の成果の普及や事業モデルの自走化を視野に、シニアの健康を目的とした生涯武道としての空手指導、生涯学習として沖縄空手の歴史や精神性等を学ぶ講座、障がい者向け空手指導、県内教育機関が在住外国人の子弟へ提供するサマースクールにおける武道教育など、先行的なモデル事業を実施する。

また、当該事業により空手関係者の自立的な取組を誘引する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
②武道教育と空手の活用						
ア 教育関係機関との連携による 小・中・高等学校での集団演武等						空手関係団体 県(教育庁保健体育課・空手振興課) 市町村
イ 保育園等での普及						空手関係団体 県(空手振興課) 市町村
ウ 来沖した海外空手家と子どもの 交流の場の創出						空手関係団体 県(空手振興課)
エ 新たな魅力の発信						空手関係団体 県(空手振興課) 市町村

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
学校行事等で空手道を取り入れている 学校数の割合(小学校・中学校・全日制 高校の合計)	平均28.7% (平成29年度- 令和3年度)	30%	35%	40%	45%	50%	保健体育課調べ
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人	「令和4年度 沖縄空手実態調 査」より

③ 競技と伝統

競技空手と伝統空手の発展に向けて、以下の取組を実施することにより空手ツーリズムを推進し、県外・海外からの空手関係者来訪数の増加等を図る。

ア 世界で実施されている空手大会やセミナー等の県内誘致

沖縄で開催される国際スポーツ大会への支援や国内外でのプロモーション活動など、市町村やスポーツコミッション沖縄等と連携して競技力向上のための合宿やイベント、競技大会等のスポーツコンベンションの誘致・開催に取り組む。

また、令和5年度から、県や県内空手関係団体・各種スポーツキャンプ等の関係機関による連携のもと、国内外の空手関係団体と調整を図りながら、海外の動向を情報収集しつつ、空手体験、空手の指導などを受けることができる商品造成とともに、スポーツ観光誘客プロモーションとして実施する。

イ 沖縄空手世界大会の定期開催

沖縄空手世界大会の定期開催に向け、振興会において、審判講習会教材を用いて審判員対象者に対し技術講習や情報交換を継続的に実施することで、審判員の技術力の向上等を図る。また、勉強会の開催など、流会派を超えた発展的な意見交換の場を設ける。

さらに、沖縄空手の保存・継承や裾野を広げる観点から、振興会を中心として、県や県内空手関係団体等の関係機関による連携のもと、沖縄空手世界大会（一般、少年少女等）のあり方についても併せて検討する。

ウ 沖縄空手案内センターの機能強化と受け皿となる道場の運営基盤の強化

沖縄空手案内センターで設定している指導料金体系については、振興会等と連携し、県内各道場に対して十分な周知を図るとともに、引き続き、同センターにおいて、県内や国内外からの情報収集を継続的に行いながら、県や振興会等の関係者との調整を図りつつ、必要に応じて適切な水準へ見直していく。

また、将来的に、当該指導料金体系において、指導者の空手の価値を適切に評価し反映できるよう、今後創設が見込まれる振興会版の継承プログラム

の受講履歴や公認段位の取得等を客観的な指標として、これらを料金体系と連動させることも視野に検討を進めていく。

さらに、同センターの自立的な運営を確立するため、プロモーションや受入体制の強化策を検討・実施し、利用者増を図るとともに、適切なコーディネート費の検討等に取り組む。

このほか、道場の運営基盤の強化に向けて、県内道場に対する総合的な支援策を検討する。その進捗状況を踏まえ、令和6年度以降に当該支援策を段階的に実施する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
③競技と伝統						
ア 世界で実施されている空手大会やセミナー等の県内誘致	市町村やスポーツコミッション沖縄と連携した誘致等の実施				現行の取組の継続・拡充	空手関係団体 県(スポーツ振興課)
	空手体験、空手の指導などを受けることができる商品造成とともに、スポーツ観光誘客プロモーションを実施					
イ 沖縄空手世界大会の定期開催	少年少女世界大会開催準備	少年少女世界大会開催	世界大会開催準備	世界大会開催	少年少女世界大会開催準備	
ウ 沖縄空手案内センターの機能強化と受け皿となる道場の運営基盤の強化	案内センターのコーディネート時の適切な指導料金体系の検討・設定(適宜、見直し)					空手関係団体 県(空手振興課)
	プロモーション、受入体制等の機能強化策の検討・実施				利用者増による案内センターの自走化	
	振興会による総合的な道場支援策(運営基盤の安定強化策)の検討・実施					
	道場支援策の段階的な実施					

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人	〃
県内道場の外国人受入率	34% (平成30年度)	35%	36%	37%	38%	39%	〃
沖縄空手世界大会の定期開催	開催 (令和4年度)	開催準備	1回	開催準備	1回	開催準備	

④ 競技力の強化

沖縄県出身空手家の活躍を促進するため、以下の取組を実施することにより、国際大会での沖縄県出身空手家の継続的な入賞を実現する。

ア 国内外での競技力向上

県による世界選手権出場選手等の強化・競技力向上に係る事業等を通じて支援を行う。

また、令和5年度から、県や県内空手関係団体等の関係機関の連携のもと、空手に特化した新たな支援策についても検討する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
④競技力の強化						
ア 国内外での競技力向上						空手関係団体 県(スポーツ 振興課)
						

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
沖縄県出身の空手家の世界選手権等の国際大会での入賞	入賞 (令和4年度)	継続的な 入賞	継続的な 入賞	継続的な 入賞	継続的な 入賞	継続的な 入賞	

(3) 「振興・発展」に関する施策展開

令和3年3月に沖縄伝統空手道振興会が法人化したことにより、道場の運営基盤強化及び道場を支援するため、さらなる取組を推進する。

また、空手ツーリズムは観光産業や商工業等関連産業への波及効果が期待できることから、空手を目的とした交流人口を増やし、「空手関連産業」という新たな産業の創出を図るため、国内外の空手愛好家から観光客まで幅広い層を対象として、空手関係者、県、観光業界等が連携して多方面にわたる受入体制の強化を図る。

① 振興・発展の全体戦略

「空手の聖地・沖縄」の確立に向けて、空手家の経済的自立、道場の運営基盤強化を図るとともに、道場を支援するための強力な事務局体制を構築する必要があることから、以下の取組を実施する。

これにより、世界中の空手愛好家が憧れる「空手の聖地・沖縄」の確立を図る。

ア ロールモデルの策定

空手を生業とする専門者のロールモデル（模範的な生活設計）を検証し、空手家が道場開設や経営・運営システムの構築を行う際の参考となる情報を提供できる体制について、その実施内容等の検討を令和5年度から行い、道場支援体制の充実に取り組む。

イ 空手のコンテンツを活用した取組

県の実施する沖縄空手映像コンテンツ制作事業（令和4年度～令和8年度）において、沖縄空手の各流派における歴史、型、鍛錬等の映像コンテンツを制作するとともに、世界中の人々が視聴できる環境を整備し、空手の文化的価値や平和の武とされる精神性を世界に向けて発信する。

空手振興課の公式YouTubeチャンネルでの配信や県が運営する観光サイトへの掲載、沖縄空手会館や沖縄伝統空手道振興会等関係団体のHPで紹介していただくなど幅広く展開し、空手映像コンテンツが多くの人目に触れる機会を増やし、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図る。

また、学校教育の場での活用を図るなど、観光分野以外での活用についても検討し、関係機関と調整を図りながら活用を広げていく。

ウ 国外及び県内外での沖縄空手の披露（再掲）

県を実施主体とした沖縄空手のイベントや広報に係る事業を通じて、国外及び県内外で開催される物産展や旅行博等のイベント会場において、沖縄の自然、音楽、食等の文化資源と連携して空手の演武を披露する。

また、県内空手家の国外及び県内外への派遣やSNS等での発信など「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上を図り、国内外の空手愛好家の来訪意欲を高める取組を行うことによって、空手ツーリズムを促進させる。

エ 国外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催（再掲）

県や県内空手関係団体を実施主体として、「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上及び国内外の空手愛好家の来訪意欲を高めるため、国外及び県内外でセミナーを実施する。

また、県と振興会が連携して、指導者及び後継者の育成、県内道場との交流を目的とした合宿等でのセミナーを県内各地で実施する。県民を対象とした沖縄空手の歴史、精神性や実技を学ぶセミナー等を実施することにより、県民が沖縄空手に接する機会を増やす取組を行う。

現在、県が開催しているセミナー等については、将来的に振興会の収益事業として実施するなど、自主的な取組を推進する。

オ 強力な事務局体制の構築

ライセンスビジネス、空手ツーリズムなど空手界及び産業間が連携した取組による自主事業や行政機関等からの受託事業を実施するなどし、振興会における組織運営及び財務基盤の安定を図るとともに、道場支援に資する事業等を展開する。

また、ロールモデルの検証など道場支援体制の充実に向けた取組を行うとともに、基金及びファンド等については、研究やエンターテイメント等への支援のあり方を検討し、考え方を整理する。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
①振興・発展の全体戦略						
ア ロールモデルの策定	ロールモデルの検証による道場支援体制の充実					空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)
イ 空手のコンテンツを活用した取組	沖縄空手映像コンテンツ制作					
ウ 国外及び県内外での沖縄空手の披露【再掲】	沖縄空手に関するイベント開催、普及・啓発事業等の継続的な実施					県(空手振興課) 空手関係団体
エ 国外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催【再掲】	国外及び県外での継続的なセミナー実施(県) 県内での継続的なセミナー実施(県、振興会など) ※振興会の自主的な取組の比率を段階的に高める。					
オ 強力な事務局体制の構築	ライセンスビジネス等の展開					空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)
	ロールモデルの策定など道場支援体制の充実					

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県内道場数	364道場 (令和3年度)	367道場	370道場	373道場	376道場	379道場	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人	〃
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (平成元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県内道場の振興会加入率	71.4% (令和3年度)	73%	75%	77%	79%	81%	〃
県民の気運醸成及び普及啓発のためのイベント参加人数	11,500人 (平成30年度)	12,100人	12,800人	13,500人	14,200人	15,000人	空手振興課調べ

② 人づくり

産官学連携による空手を活用した人づくりを総合的に研究し体系化することや空手を軸としたマーケティング戦略を構築するとともに、空手をテーマとした研究を継続的に行いながら、以下の取組を実施する。

これにより、空手に関する人づくりを科学的に体系化し、普及体制の確立を図る。

ア 産官学連携による空手を活用した人づくりの体系化

産官学連携のもと、空手の稽古による身体的発育や人格形成への効果及びエビデンス等データの収集、人間力を高める効能など、空手を活用した人づくりを総合的に研究するため、令和5年度から令和7年度は空手関係団体、関係機関等と調整を行いながら研究テーマとスケジュール、実施体制等を調整の上、事業スキームを策定する。

また、令和8年度から、関係機関で調整し具体的な内容等を決定し、実施する。これらの取組により、沖縄空手の精神性、鍛錬で得られる効果を国内外の人々へ発信し、「空手の聖地・沖縄」の確立を図る。

イ 空手を軸としたマーケティング戦略の構築

門下生の増及び観光客に空手の魅力を伝えること等を目的としたマーケティング戦略の構築に向けて検討を行うとともに、歴史、スポーツ科学、健康、コンテンツ等の各種研究・試験を実施するために、空手関係団体、関係機関及び県等により実施体制、スケジュール等スキーム作りを令和5年度から令和7年度にかけて取り組む。

令和8年度以降は、各テーマごとに産官学が連携して各種研究・試験を実施するとともに、研究等の進捗状況を踏まえながら実用化の検証や普及体制の検討を行う。

ウ エンターテインメント作品の制作による人材育成

県が実施しているエンターテインメント関連の事業を活用するなど、空手と連携したエンターテインメント作品を制作し、公演の実績を積み重ねてノウハウを蓄積するとともに、継続的に実施する仕組み作りをして自走化できる体制を構築する。

これにより、エンターテインメント作品内容の向上、人材の確保及びスキル向上等を図り、人材育成の場としても活用できるように整備するとともに、他の文化資源と連携を図り公演を継続することにより、質の高い高度なエンターテインメントを形成して、国内外の人々に向けて沖縄空手をPRする。

また、琉球舞踊やエイサー、三線などの他の沖縄伝統文化との交流を深めることにより、他文化と連携したエンターテインメント作品の制作を検討し、沖縄空手の裾野を広げる取組を推進する。

エ 来訪する外国人等に向けた空手の普及活動の推進

関係機関等が実施する受入関連事業等を活用し、来訪する外国人や観光客向けに空手を指導する事業等を実施するとともに、事業の終期を見据えて、自走化できる仕組みを構築する。

また、研究や短期留学等で沖縄に滞在する外国人向けに、沖縄空手に触れる機会を設け、沖縄への理解度を深めるための仕組みの構築に向けて、実施体制、実施内容等の検討に取り組む。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
②人づくり						
ア 産官学連携による空手を活用した人づくりの体系化	実施体制、実施内容等の検討、関係機関等の調整			空手を活用した人づくりの体系化の構築		空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)
イ 空手を軸としたマーケティング戦略の構築	実施体制、実施内容等の検討			歴史、文化、スポーツ科学、健康、コンテンツ等の研究		
ウ エンターテインメント作品の制作による人材育成	沖縄空手映像コンテンツの制作					
	空手と連携したエンターテインメント作品の制作					
エ 来訪する外国人等に向けた空手の普及活動の推進	関係機関等が実施する受入関連事業等を活用した外国人や観光客向け空手の普及					空手関係団体 関係機関
	来訪する外国人向け空手の普及					

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県内道場の門下生数(平均)	21人 (令和3年度)	23人	25人	27人	29人	31人	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より

③ 情報通信の活用

沖縄空手案内センターでは、インターネットを活用して多言語の情報発信を行っているが、国内外からの多様なニーズに対応する必要があることから、以下の取組を実施する。

また、令和2年度に制作した空手アプリの活用及び機能強化を図ることにより国内外への「空手発祥の地・沖縄」の発信強化及び継続的な運営に向けて取り組む。

ア 空手に関するアプリの活用及び機能強化

世界中の空手愛好家が「いつでも、どこでも、だれでも」沖縄空手に関する情報にユーザーがアクセスできるシステムの構築及び継続的な運営を検討する。

沖縄空手に関する情報を発信するとともに、世界中の人々が空手に関する書籍や映像資料等がWEB等のシステムで購入・活用できる仕組みを構築する。

また、モデル的にインターネットを経由した昇級昇段試験の管理等に関しては、実施主体や内容等の検討を行う。「沖縄空手ナビ」への上記機能の追加を検討し、空手アプリの活用促進を図る。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
③情報通信の活用						
ア 空手に関するアプリの活用及び機能強化	システムの運用と情報の追加					IT関係機関 空手関係団体 県(空手振興課)

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ
県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率	30.8% (令和4年度)	34%	37%	40%	43%	46%	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
案内センターの利用者数	682人 (令和元年度)	370人	680人	740人	810人	880人	空手振興課調べ

④ 産業振興

空手を目的とした交流人口の拡大による産業振興及び空手ツーリズムの推進、空手を活用して観光業や商工業と連携した「空手関連産業」の創出、道場運営に対する支援等、以下の取組を実施する。

ア 空手ツーリズムの推進

国内外の空手愛好家、観光客、修学旅行生等の来訪意欲を高め、歴史や精神性、精緻な技等沖縄空手の本質に触れることができる空手ツーリズムを推進する。具体的に、道場やセミナー等での稽古を目的に来訪する国内外の空手愛好家（ヘビー層）には、沖縄独自の伝統文化や自然豊かな沖縄の観光と組み合わせた空手修行ツーリズムや各流派の空手家や縁の地を巡るルーツツーリズム、交流を目的とした国内合宿の誘致等を推進する。

また、観光客・修学旅行生等（ライト層）には空手体験と演武鑑賞（空手文化ツーリズム）等それぞれの対象に合った旅行商品の造成、体験プログラム、プロモーション等を実施するなど、県及び振興会、空手関係者、観光業界が連携して取り組む。

令和3年度から実施している空手専用ガイドの養成については、養成した空手専用ガイドを大会や道場、セミナー等で活用して、国内外からの空手愛好家の受入体制を構築する。

さらに、教育旅行の招聘に関しては、企画や調整等に時間を要することから、中長期の視点で取り組む。

イ 平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成

令和5年度から令和7年度にかけて、沖縄空手会館の近隣にある旧海軍司令部壕（海軍壕公園）や地元の観光資源を掘り起こすなど地元自治体等と連携し、観光ルート化を図り相乗効果を生むための仕組み作りや地域の環境整備に向けた調整を行う。

また、「おきなわ工芸の杜」との連携については、隣接するメリットを活かして伝統文化、伝統工芸との連携を図るなど施設間で相乗効果が図れるよう関係機関等と調整を行う。

周辺施設と連携することにより、国内外からの空手愛好家や観光客、修

学旅行や校外学習等で児童生徒が訪れる拠点形成を行う。

ウ ライセンシングによる権利保護と活用

令和4年度から、振興会において、県、関係機関等と調整を図りながら、ライセンスの取得に向けた実施体制、実施内容等について検討をした上で、申請等を行う。

また、令和5年度以降は、県、空手関係者、関係機関等と連携しながら、商標登録等の知的財産の保護・活用に向けて取り組む。企業等と連携した商品展開によりライセンス料が収入となる仕組みの構築に向けて取り組む。

エ ロールモデルの策定（再掲）

空手を生業とする専門者のロールモデル（模範的な生活設計）を検証し、空手家が道場開設や経営・運営システムの構築を行う際の参考となる情報を提供できる体制について、その実施内容等の検討を令和5年度から行い、道場支援体制の充実に取り組む。

オ 空手家の生活基盤の安定化に向けた金融を含む多様な支援策の検討

空手を生業とする空手家のライフステージにあわせて想定される道場開設、運転資金等金融を含む多様な支援策の検討については、関係者間による仕組み作りが重要であることから、令和5年度から十分な期間を設けて検討・調整を行う。

検討にあたっては、空手関係者、金融機関、その他関係機関等で、専門家を交えて支援策について検討を行う。

【年度別計画】

施策項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	実施主体
④産業振興						
ア 空手ツーリズムの推進	ターゲット(空手愛好家、観光客、修学旅行生等)に合った空手ツーリズムの推進					観光関係機関 空手関係団体 県(空手振興課)
	空手専用ガイドの養成及び活用、受入体制の構築					
イ 平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成	連携した自主事業の取組・開発					空手関係団体 県(空手振興課・ものづくり振興課) 市町村 指定管理者 観光関係機関
	関係機関等との調整					
ウ ライセンシングによる権利保護と活用	ライセンスビジネス等の展開					空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)
エ ロールモデルの策定【再掲】	ロールモデルの検証による道場支援体制の充実					
オ 空手家の生活基盤の安定化に向けた金融を含む多様な支援策の検討	金融を含む支援策について実施方法、実施体制、内容等の検討					

【成果指標】

指標名	基準値	目標値					備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
県外・海外からの空手関係者来訪数	8,871人 (令和元年度)	4,700人	8,900人	9,700人	10,500人	11,400人	空手振興課調べ
県内道場数	364道場 (令和3年度)	367道場	370道場	373道場	376道場	379道場	「令和4年度 沖縄空手実態調査」より
ライセンスを活用した商品数	未実施 (令和4年度)	1商品	1商品	1商品	1商品	1商品	

4 進捗管理

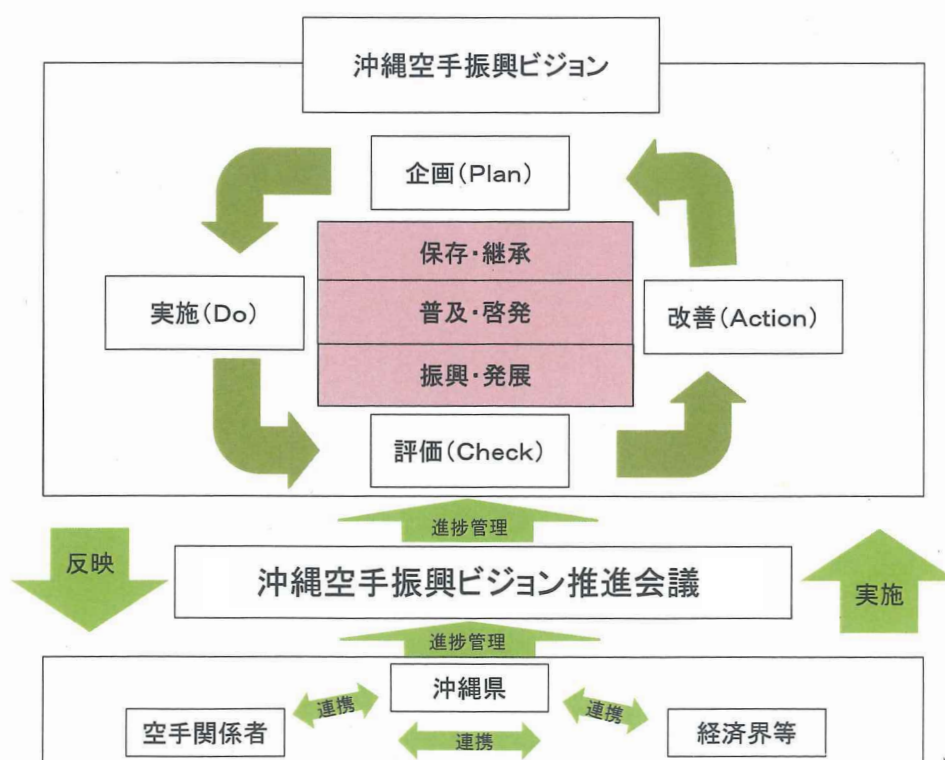
(1) ロードマップの推進体制

ビジョンの実現に向けて効率的かつ効果的に進めるためには、ロードマップで明確にしたスケジュール、実施体制、成果指標をもとに、各関係機関等が主体性と責任を持って取り組むとともに、体系的に進捗管理を図ることが重要である。

そのため、ロードマップの推進にあたっては、空手関係団体、県をはじめとして、地元自治体や関係機関、観光業や商工業等の経済界等が密に連携を図り、明確な役割分担を行い、推進体制を構築する必要がある。

(2) 進捗管理

ロードマップの進捗管理については、企画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のPDCAサイクルにより確実かつ効果的な推進を図るとともに、沖縄空手振興ビジョン推進会議を毎年度開催し、進捗状況の確認、成果指標達成の状況の検証等を行う。



【 資 料 編 】

1	「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」策定の経緯	1
2	第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会委員及び 部会委員名簿	2
3	第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会及び 各部会組織図	4
4	沖縄空手振興ビジョンロードマップ一覧表	5

1 「第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ」策定の経緯

1. 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会

【令和4年】

○第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップの策定、第2期の施策について

7月23日 第1回次世代空手家ワーキングチーム会議

8月13日 第2回次世代空手家ワーキングチーム会議

8月28日 第1回保存・継承検討部会

9月1日 第1回振興・発展検討部会

9月8日 第1回普及・啓発検討部会

9月22日 第1回第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会

○第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップの施策について

10月1日 第3回次世代空手家ワーキングチーム会議

10月18日 第2回保存・継承検討部会

10月26日 第2回普及・啓発検討部会

10月28日 第2回振興・発展検討部会

11月18日 第2回第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会

○第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ案、成果指標について

11月25日 第4回次世代空手家ワーキングチーム会議

11月29日 第3回振興・発展検討部会

11月30日 第3回保存・継承検討部会

12月26日 第3回普及・啓発検討部会

【令和5年】

1月19日 第3回第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会

2. 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定シンポジウム

【令和5年】

2月26日 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定シンポジウム

2 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会委員及び部会委員名簿

(1) 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会

	名前	役職等	備考
1	川上 睦子	県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監	委員長
2	平良 貞行	全沖縄空手道連盟理事長	
3	八木 明人	沖縄空手・古武道連盟理事長	
4	上里 一雄	沖縄県空手道連合会理事長	
5	高良 正剛	沖縄県空手道連盟理事長	
6	上原 邦男	(一社)沖縄伝統空手道振興会事務局長	
7	東恩納 盛男	県指定無形文化財保持者	
8	小松 聡	沖縄小林流空手道協会	
9	内間 康貴	(一財)OCVB 企画・施設事業部長	
10	安慶名 貢	(公財)産業振興公社経営支援部長	
11	久万田 晋	沖縄県立芸術大学芸術文化研究所所長	
12	田名 真之	県立博物館・美術館館長	
13	玉城 学	県教育庁教育指導統括監	

(2) 各部会委員

①第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ 保存・継承検討部会

	氏名	役職等	備考
1	田名 真之	県立博物館・美術館館長	部会長
2	島袋 春吉	全沖縄空手道連盟副会長	
3	金城 常雄	沖縄空手・古武道連盟副理事長	
4	新垣 隆	沖縄県空手道連合会副会長	
5	津波 清	沖縄県空手道連盟副会長	
6	大城 信子	沖縄空手道小林流大信館協会会長	
7	仲村渠 良一	沖縄剛柔流空手道正道館南風原総本部道場館長	
8	伊波 光忠	琉球古武道琉棍会守道館総本部館長	
9	上地 完尚	上地流空手道協会会長	
10	仲本 雄一	空手武道剛柔流仲本塾塾長	
11	久万田 晋	沖縄県立芸術大学芸術文化研究所所長	
12	仲村 顕	沖縄県立芸術大学芸術文化研究所共同研究員	
13	安慶名 貢	(公財)産業振興公社経営支援部長	
14	瑞慶覧 勝利	県教育庁文化財課長	
15	佐和田 勇人	県文化観光スポーツ部空手振興課長	

②第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ 普及・啓発検討部会

	氏名	役職等	備考
1	小松 聡	沖縄小林流空手道協会	部会長
2	仲里 武思	全沖縄空手道連盟副会長	
3	奥間 隆	沖縄空手・古武道連盟副会長	
4	具志川 光彦	沖縄県空手道連合会事務局長	
5	新城 清秀	沖縄県空手道連盟副会長	
6	宮城 敏也	沖縄県立前原高等学校校長	
7	上原 邦男	(一社)沖縄伝統空手道振興会事務局長	
8	比嘉 康雄	沖縄小林流空手道究道館泉崎道場館長	
9	島袋 善俊	国際沖縄少林流聖武館空手道協会聖武館大里道場館長	
10	浜田 篤	沖縄空手道協会上地流泡瀬道場館長	
11	宮里 大八	沖縄市観光スポーツ振興課主幹	
12	城間 敏生	県教育庁保健体育課長	
13	嘉数 晃	県文化観光スポーツ部スポーツ振興課長	
14	佐和田 勇人	県文化観光スポーツ部空手振興課長	

③第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ 振興・発展検討部会

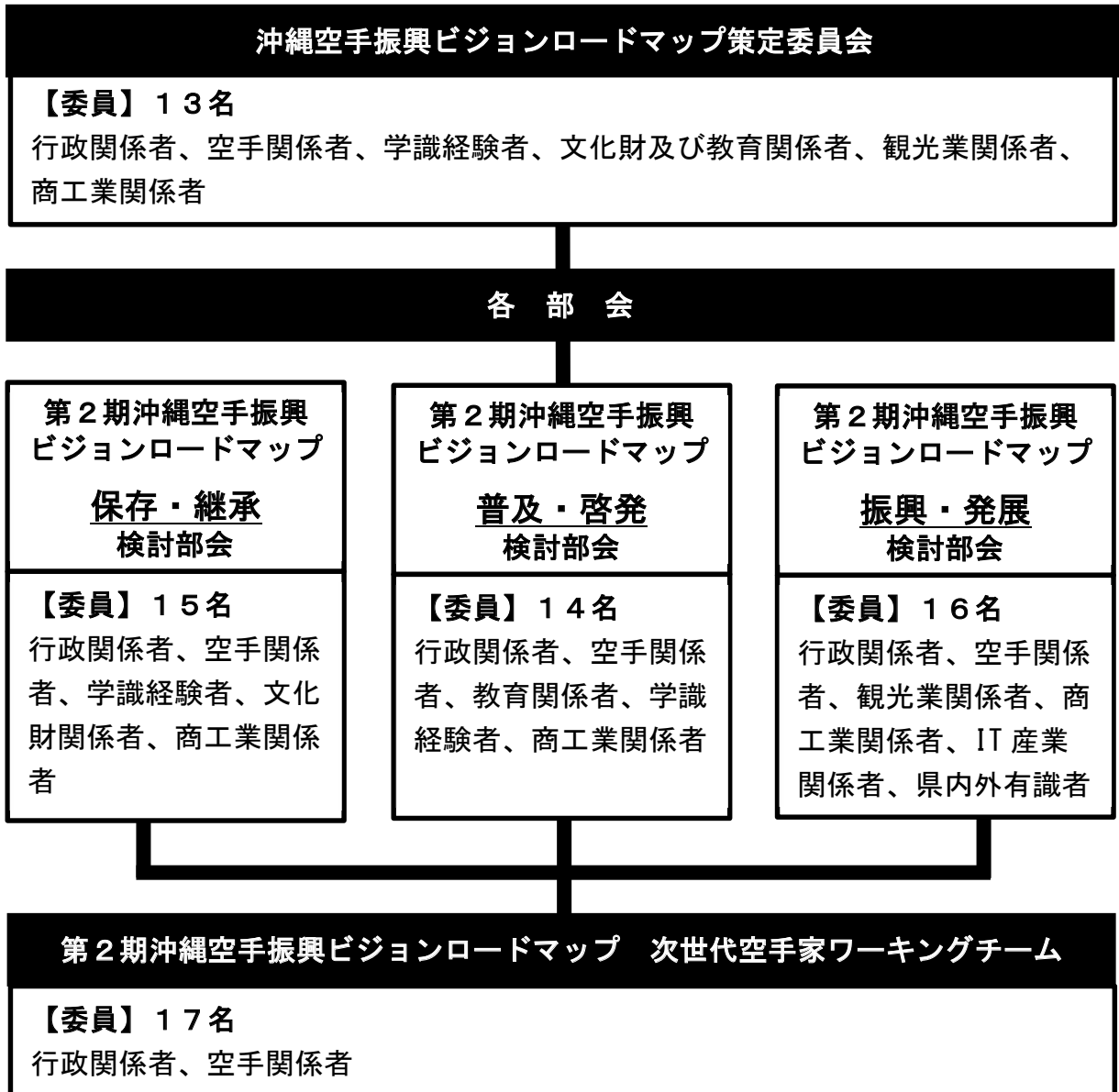
	氏名	役職等	備考
1	川上 睦子	県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監	部会長
2	八木 一平	波之上明武館八木道場館長	
3	新城 武	沖縄空手道拳法会拳龍同志会	
4	内間 康貴	(一財)OCVB 企画・施設事業部長	
5	神田 宏樹	(株)JTB 沖縄交流営業部地域交流事業マネージャー	
6	増田 典彦	(株)JCC 国際事業部統括	
7	運天 修	(株)沖縄県物産公社代表取締役専務	
8	中曽根 健士	(株)守礼堂代表取締役社長	
9	山田 一誠	(一財)沖縄 IT イノベーション戦略センター専務理事	
10	井出 将周	(株)チャンプ代表取締役	
11	伊元 幸春	おきなわ工芸の杜館長	
12	中村 靖	沖縄空手会館館長	
13	ミゲール・ダルーズ	(一社)沖縄伝統空手道振興会事業企画員	
14	千住 文子	豊見城市総務企画部産業振興課長	
15	上原 美也子	県商工労働部ものづくり振興課長	
16	佐和田 勇人	県文化観光スポーツ部空手振興課長	

④沖縄空手振興ビジョンロードマップ 次世代空手家ワーキングチーム

	氏名	役職等	備考
1	桃原 直子	県文化観光スポーツ部空手振興課空手振興班長	チーム長
2	伊波 光忠	琉球古武道琉棍会守道館総本部館長	
3	国吉 洋一郎	上地流拳優会	
4	島袋 善俊	国際沖縄少林流聖武館空手道協会聖武館大里道場館長	
5	長嶺 朝一郎	上地流空手道琉球古武道琉志会安謝修武館館長	
6	仲本 守	沖縄伝統古武道保存会文武館館長	
7	仲本 雄一	空手武道剛柔流仲本塾塾長	
8	比嘉 康雄	沖縄小林流空手道究道館泉崎道場館長	
9	八木 明人	国際明武館剛柔流空手道連盟総本部会長	
10	八木 一平	波之上明武館八木道場館長	
11	伊佐 英一	沖縄少林流空手道国際連盟真武館	
12	上地 完尚	上地流空手道協会会長	
13	新城 武	沖縄空手道拳法会拳龍同志会	
14	高里 千春	全沖縄少林寺流空手道協会求道館高里道場館長	
15	當山 敏	琉球国技会空手道剛柔流心治館館長	
16	浜田 篤	沖縄空手道協会上地流泡瀬道場館長	
17	興儀 清斗	(一社)実戦沖縄武道連盟琉成會総本部館長	

3 第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会及び各部会組織図

第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定委員会等組織図



4 沖縄空手振興ビジョンロードマップ一覧表

1. 「保存・継承」関係

施策項目	年度別計画					将来像	成果指標 5年後(令和9年度)	実施主体
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度			
① 技及び精神性の継承								
ア 道場の運営基盤強化支援	自主事業の展開等による振興会の組織運営基盤の強化					<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄を発祥の地とする空手の型に秘められた精緻な技と、厳しい鍛錬を通して得られる自信と他者への思いやりの心、及び平和を希求する空手の精神性が沖縄の地で確実に受け継がれている。 ・子どもから大人までライフスタイルにあわせた空手との関わりが持たれている。特に、幼少期から小学生にかけては礼節の心を学び、中学生は身体的発育に資する武術として伸びやかな動きを中心に活動し、高校生からは護身術として実際に用いる法を学んでいる。 ・沖縄県民の健康長寿を増進させる手段として空手が活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■県内道場数 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和3年度): 364道場 *目標(令和9年度): 379道場 ■県内道場の門下生数(平均) <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和3年度): 平均21人 *目標(令和9年度): 平均31人 ■県内道場の外国人受入率 <ul style="list-style-type: none"> *現状(平成30年度): 34% *目標(令和9年度): 39% ■県内道場でセミナー開催率 <ul style="list-style-type: none"> *現状(平成30年度): 25% *目標(令和9年度): 35% 	空手関係団体 県(空手振興課)
	総合的な道場支援(運営基盤の安定化策)の検討							
			道場支援策の段階的な実施					
イ 指導者及び後継者の育成	指導体系書等の検討・策定		適宜、必要に応じて策定			<ul style="list-style-type: none"> ・空手の型に秘められた技や平和の武といわれる精神性が、沖縄の歴史性を踏まえ、読本や技術体系書及び指導体系書として整備され、人材育成に活用されている。 ・空手の技と精神性を習得するために、世界中から多くの空手愛好家が来訪している。 ・国内外の要請に応じて沖縄から指導者を派遣し、世界各地で指導する体制が確立されている。 ・スポーツ科学の進展にあわせたトレーニング方法等を取り入れ、突き・蹴りなどの速度や身体動作の技術が高まっている。 		
	後継者育成等に向けた取組検討・実施							
	関係機関による調整、継承プログラムの策定スキームや内容の検討				継承プログラム策定			
② 沖縄空手関係団体・流派・道場間の連携								
ア 振興会の組織運営基盤の強化	継続的な組織運営体制の改善					<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄空手界の統一組織である沖縄伝統空手道振興会が組織運営の根幹となるビジョンを有し、事務局体制や運営基盤の強化が図られ、振興会の意思決定に会員の誰もが参加できるなど自主的な組織活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■振興会の運営基盤の確立 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和4年度): 未実施 *目標(令和9年度): 3件以上 ■「空手の日」記念演武祭などイベントを通じた道場主等の交流機会の創出 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和4年度): 2回 *目標(令和9年度): 開催(年1回以上) 	空手関係団体 県(空手振興課)
	自主事業の展開等による振興会の組織運営基盤の強化							
イ 流派・道場間の連携促進	後継者育成等に向けた取組検討・実施					<ul style="list-style-type: none"> ・流派連絡会が定期的に開催され、型解釈の考え方や会派の情報交換が密接に行われるとともに、全道場主会が開かれ幅広い意見交換がなされることにより、沖縄空手界全体の意思決定と組織力が強化されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■県内道場の振興会加入率 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和3年度): 71.4% *目標(令和9年度): 81% 	空手関係団体 県(空手振興課)
	全道場主会設置を検討							
ウ 道場の運営基盤強化支援(再掲)	自主事業の展開等による振興会の組織運営基盤の強化					<ul style="list-style-type: none"> ・道場は地域の中核的なコミュニティの場として門下生のみならず多くの人が集い、安心と信頼に基づく豊かな地域社会の拠点として運営されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■振興会による道場支援件数 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和4年度): 未実施 *目標(令和9年度): 8件 ■県内道場の門下生数(平均)【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和3年度): 平均21人 *目標(令和9年度): 平均31人 	空手関係団体 県(空手振興課)
	総合的な道場支援(運営基盤の安定化策)の検討							
			道場支援策の段階的な実施					
エ 国内外の空手愛好家への適切な指導料体系の設定	必要に応じた指導料体系の見直し、県内道場に対する指導料体系の周知							
③ 公認段位制度								
ア 公認段位制度の創設	関係機関からの情報収集	関係機関による意見交換		取組の方向性の整理(ワーキンググループによる検討等)		<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄空手界における技量等を確認するための客観的指標である公認段位制度のあり方が整理され、世界でも権威のある段位授与制度が確立されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■公認段位制度の創設 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和4年度): 未実施 *目標(令和9年度): ワーキンググループによる検討等の実施 	空手関係団体 県(空手振興課)
④ ユネスコ無形文化遺産への登録等								
ア 県指定無形文化財保持者の追加認定	関係機関による意見交換		保持者の適切な追加認定			<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県指定無形文化財「沖縄の空手・古武術」の保持者が適切に追加認定され保存会の事務局体制が拡充強化されることにより、保存継承にかかる活動が国内外において活発に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■県外における「空手・発祥の地・沖縄」の認知率 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和4年度): 30.8% *目標(令和9年度): 46% 	県(教育庁 文化財課)
	提案内容の検討							
イ ユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組の推進	国の関係省庁との調整					<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄空手の学術研究が深まることにより、伝統文化として平和を希求する沖縄空手の文化的価値と精神性が認められ、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。 ・沖縄を発祥の地とする空手が、世界各国の基準に基づき「平和の武術・平和の武道・平和のスポーツ」として認められ評価を受けている。 ・世界の政治経済等のリーダーが精神修養等のため空手を学び、空手の鍛錬を通して習得した平和の心に基づき行動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■県外・海外からの空手関係者来訪者数 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和元年度): 8,871人 *目標(令和9年度): 11,400人 ■県民の気運醸成及び普及啓発のためのイベント参加者数 <ul style="list-style-type: none"> *現状(平成30年度): 11,500人 *目標(令和9年度): 15,000人 	県(空手振興課) 空手関係団体 等
	登録に向けた県民気運の醸成・啓発活動 (沖縄空手イベント開催事業、沖縄空手普及・啓発事業、沖縄空手ユネスコ登録推進事業など)							
⑤ 学術研究・体制								
ア 沖縄空手会館の博物館相当施設としての活動の充実	収集した資料の分析、研究成果の発表や企画展を継続的に実施					<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄空手会館の展示施設に空手に特化した専門職員を配置して必要な資料を収集するとともに、詳細な分析・研究を行い学術的水準を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■空手会館の展示施設観覧者数 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和3年度): 3,280人 *目標(令和9年度): 16,300人 	県(空手振興課)
	関係機関の洗い出し、調整							
イ 高等教育機関と連携した研究活動	関係機関の洗い出し、調整			高等教育機関等と連携した取組の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の大学に空手の専門学科又は学部が設置されるなど、高等教育として空手の学術研究がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■高等教育機関との連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> *現状(令和4年度): 未実施 *目標(令和9年度): 1機関(連携機関数) 	県(空手振興課)

2. 「普及・啓発」関係

施策項目	年度別計画					将来像	成果指標 5年後(令和9年度)	実施主体
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度			
① 空手発祥の地・沖縄								
ア 国外及び県内外での沖縄空手の演武披露	沖縄空手に関するイベント開催、広報事業等の継続的な実施					・空手愛好家をはじめとする世界中の人々が「空手発祥の地・沖縄」を認識している。 ・老若男女を問わず世界中が沖縄を空手の発祥の地とする空手で交流を深めている。	■県内における「空手発祥の地・沖縄」の認知率 *現状(令和4年度): 88.5% *目標(令和9年度): 96.0%	空手関係団体 県(空手振興課)
イ 国外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催	国外及び県内外での継続的なセミナー実施(県、振興会など) ※県内セミナーについては振興会の自主的な取組の比率を段階的に高める。					・「空手発祥の地・沖縄」で育まれ受け継がれてきた空手が、全国の空手愛好家と心をつなぐとしてユネスコ無形文化遺産の登録に向けた活動を行い、さらなるブランディングが図られている。	■県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率【再掲】 *現状(令和4年度): 30.8% *目標(令和9年度): 46%	
ウ 各国への沖縄空手支部の設立及び沖縄空手大使の設置	調査等により海外支部の状況を把握	関係機関による調整			候補洗い出し	・沖縄空手に特化した「沖縄空手大使」を設置し、国内外で普及活動等を行うことにより世界と沖縄をつなげている。 ・世界中に沖縄と縁のある空手の組織(支部)を作り、情報交換や交流、沖縄で大会等を開催する際には当該組織を通じて周知を図るなど、世界と沖縄のネットワークが構築されている。	■県外・海外からの空手関係者来訪数【再掲】 *現状(令和元年度): 8,871人 *目標(令和9年度): 11,400人	
エ ギネス記録更新に向けた「空手の日」と「ウチナンチュ大会」との連携等	取組の継続					・沖縄が空手演武におけるギネス記録を更新し続け、遂には全ての県民による世界記録が樹立されている。		
② 武道教育と空手の活用								
ア 教育関係機関との連携による小・中・高等学校での集団演武等	〈小・中・高〉外部指導者の継続的な活用、空手道推進校を中学・高校持ち回りで毎年指定し、空手道に特化した学校体育の研究を実施						■学校行事等で空手道を取り入れている学校数の割合(小学校・中学校・全日制高校の合計) *現状(平成29-令和3年度): 平均28.7% *目標(令和9年度): 50%	空手関係団体 県(教育庁保健体育課・空手振興課) 市町村
イ 保育園等での普及	関係機関からの情報収集、保育園等における普及を継続的に実施 園児向けの型を創作して普及を図る 保育園等と道場が連携して普及に取り組むスキーム作りの実施					・県内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の運動会、体育祭等で基本動作や簡易な型、普及型Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの集団演武が行われている。	■県内道場の門下生数(平均)【再掲】 *現状(令和3年度): 平均21人 *目標(令和9年度): 平均31人	空手関係団体 県(空手振興課) 市町村
ウ 来沖した海外空手家と子どもの交流の場の創出	関係機関による調整、スキーム検討、事業化 先行的なモデル事業の実施 継続的な交流の実施					・沖縄県民は学校体育を通じ、生涯スポーツとしての観点から沖縄空手を身につけている。		空手関係団体 県(空手振興課)
エ 新たな魅力の発信	関係機関による調整、課題やニーズ把握 しまくとぅばを取り入れた普及型等の検討 モデル事業の実施 モデル事業による空手関係者の自立的な取組の誘引							空手関係団体 県(空手振興課) 市町村
③ 競技と伝統								
ア 世界で実施されている空手大会やセミナー等の県内誘致	市町村やスポーツコミッション沖縄と連携した誘致等の実施 空手体験、空手の指導などを受けることができる商品造成とともに、スポーツ観光誘客プロモーションを実施					・国内、アジア、世界の様々な空手関係団体と連携を図り、沖縄空手会館をはじめとする県内各地で、一年を通して各団体等による大会や演武会、セミナー等、空手に関するイベントが開催されている。	■県外・海外からの空手関係者来訪数【再掲】 *現状(令和元年度): 8,871人 *目標(令和9年度): 11,400人 ■県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率【再掲】 *現状(令和4年度): 30.8% *目標(令和9年度): 46%	空手関係団体 県(スポーツ振興課)
イ 沖縄空手世界大会の定期開催	少年少女世界大会開催準備	少年少女世界大会開催	世界大会開催準備	世界大会開催	少年少女世界大会開催準備	・沖縄空手国際大会は、国内外の空手愛好家が一度は出場を目指す世界的に権威のある大会となり、定期的に開催されている。 ・競技空手と伝統空手は世界の空手愛好家を牽引する両輪として、明確なビジョンのもと、それぞれの特徴を最大限発揮しながら、必要な協力を行いつつ共に発展している。	■県内道場の門下生数(平均)【再掲】 *現状(令和3年度): 平均21人 *目標(令和9年度): 平均31人 ■県内道場の外国人受入率【再掲】 *現状(平成30年度): 34% *目標(令和9年度): 39%	空手関係団体 県(空手振興課)
ウ 沖縄空手案内センターの機能強化と受け皿となる道場の運営基盤の強化	案内センターのコーディネート時の適切な指導料金体系の検討・設定(適宜、見直し) プロモーション、受入体制等の機能強化策の検討・実施 振興会による総合的な道場支援策(運営基盤の安定強化策)の検討・実施 道場支援策の段階的な実施					・伝統空手は、生涯武道としてすべての空手愛好家の受け皿となっている。	■沖縄空手世界大会の定期開催 *現状(令和4年度): 開催 *目標(令和9年度): 開催準備	空手関係団体 県(空手振興課)
④ 競技力の強化								
ア 国内外での競技力向上	県による選手強化・競技力向上に係る事業等を通じた継続的な支援の実施(現行の取組の継続・拡充) 関係機関の連携のもと、空手に特化した支援策の検討・実施(新たな取組の検討)					・沖縄県出身の空手家がオリンピックの形種目において金メダルを取り続けている。	■沖縄県出身の空手家の世界選手権等の国際大会での入賞 *現状(令和4年度): 入賞 *目標(令和9年度): 継続的な入賞	空手関係団体 県(スポーツ振興課)

3.「振興・発展」関係

施策項目	年度別計画					将来像	成果指標 5年後(令和9年度)	実施主体
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度			
①振興・発展の全体戦略								
ア ロールモデルの策定	ロールモデルの検証による道場支援体制の充実					・空手を活用した収入手段や関連産業が多様化し、門下生から始まり、道場手伝い・ボランティア、兼業、関連企業への就職、安心して暮らせる専業など、「空手に関する生業のロールモデル(模範的な生活設計)」が構築されている。	■県内道場数【再掲】 *現状(令和3年度)：364道場 *目標(令和9年度)：379道場 ■県内道場の門下生数(平均)【再掲】 *現状(令和3年度)：平均21人 *目標(令和9年度)：平均31人	空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)
イ 空手のコンテンツを活用した取組	沖縄空手映像コンテンツ制作					・子どもから高齢者まで、全ての人を対象とした教材や映画などの各種コンテンツが充実し、これらの活用により空手の精神性が深く理解されている。	■県外・海外からの空手関係者来訪数【再掲】 *現状(令和元年度)：8,871人 *目標(令和9年度)：11,400人 ■県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率【再掲】 *現状(令和4年度)：30.8% *目標(令和9年度)：46%	
ウ 国外及び県内外での沖縄空手の披露【再掲】	沖縄空手に関するイベント開催、普及・啓発事業等の継続的な実施					・沖縄は、空手に関する夢が叶い、空手家が豊かな人生を歩む「空手の聖地」となっている。	■県内道場の振興会加入率【再掲】 *現状(令和3年度)：71.4% *目標(令和9年度)：81% ■県民の気運醸成及び普及啓発のためのイベント参加人数 *現状(平成30年度)：11,500人 *目標(令和9年度)：15,000人	県(空手振興課) 空手関係団体
エ 国内外及び県内外での沖縄空手セミナーの開催【再掲】	国外及び県外での継続的なセミナー実施(県) 県内での継続的なセミナー実施(県、振興会など) ※振興会の自主的な取組の比率を段階的に高める。					・空手家は、県民をはじめとする世界中の人々から尊敬され「空手レジェンド(偉大な人物)」と称賛されている。		
オ 強力な事務局体制の構築	ライセンスビジネス等の展開 ロールモデルの策定など道場支援体制の充実					・空手の振興・発展を図るため、沖縄において、国内外の関係団体と連携した強力な組織体制が構築され、企画・運営・管理・改善がなされている。	空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)	
②人づくり								
ア 産官学連携による空手を活用した人づくりの体系化	実施体制、実施内容等の検討、関係機関等の調整			空手を活用した人づくりの体系化の構築		・産官学連携のもと、企画調整を担う事務局体制が構築され、空手を活用した体育・德育・食育・知育による人づくりの方法が科学的に体系化されている。(①体育—身体鍛錬、競技スポーツ、②德育—精神修養、③食育—栄養摂取、沖縄食材の効用、④知育—体の仕組みから自然・人文・社会の学習教材展開等) ・門下生や観光客等を「客」として捉えた個々のマーケティング戦略が構築され、産学と連携した歴史、文化、スポーツ科学、健康、コンテンツ等の各種研究・試験、実用化検証及び普及体制が確立されている。 ・空手が、琉球音楽や琉球舞踊などの個性豊かで多様性のある文化資源と連携し、高度なエンターテインメントとして公演されている。	■県内道場の門下生数(平均)【再掲】 *現状(令和3年度)：平均21人 *目標(令和9年度)：平均31人 ■県外・海外からの空手関係者来訪数【再掲】 *現状(令和元年度)：8,871人 *目標(令和9年度)：11,400人 ■県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率【再掲】 *現状(令和4年度)：30.8% *目標(令和9年度)：46%	空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)
イ 空手を軸としたマーケティング戦略の構築	実施体制、実施内容等の検討			歴史、文化、スポーツ科学、健康、コンテンツ等の研究				
ウ エンターテインメント作品の制作による人材育成	沖縄空手映像コンテンツの制作							
	空手と連携したエンターテインメント作品の制作							
エ 来訪する外国人等に向けた空手の普及活動の推進	関係機関等が実施する受入関連事業等を活用した外国人や観光客向け空手の普及					空手関係団体 関係機関		
	来訪する外国人向け空手の普及							

3.「振興・発展」関係

施策項目	年度別計画					将来像	成果指標	実施主体
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		5年後(令和9年度)	
③情報通信の活用								
ア 空手に関するアプリの活用及び機能強化	システムの運用と情報の追加					<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄空手会館を拠点に、空手に関連する情報がインターネット上で多言語化され、世界中の人々が「いつでも、どこでも、だれでも」アクセスし把握できる仕組みが構築されている。 ・各道場や指導者等の閲覧、稽古または見学の予約が行えるとともに、書籍、映像資料、道着、空手関連のゲームや音楽等が閲覧、購入できる仕組みが構築されている。 ・インターネットを経由して、修行年数及び鍛錬の度合いに応じた道場探しや、会員資格等の登録手続、指導者として認定される特定の段以上を沖縄で受験する場合の手続等が可能となっている。 ・沖縄空手案内センター等が中心となって、インターネットを活用した国内外の空手愛好家の受入体制が構築され来訪者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ■県外・海外からの空手関係者来訪数【再掲】 *現状(令和元年度)：8,871人 *目標(令和9年度)：11,400人 ■県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率【再掲】 *現状(令和4年度)：30.8% *目標(令和9年度)：46% ■案内センターの利用者数 *現状(令和元年度)：682人 *目標(令和9年度)：880人 	IT関係機関 空手関係団体 県(空手振興課)
④産業振興								
ア 空手ツーリズムの推進	ターゲット(空手愛好家、観光客、修学旅行生等)に合った空手ツーリズムの推進					<ul style="list-style-type: none"> ・観光商品として、空手のルーツを辿るコースや、沖縄空手会館での演武披露、空手を体験できるプログラム、オリジナル商品等を企画・開発することより、空手愛好家のみならず空手を目的とした交流人口の拡大と、消費額の増加により幅広い産業への経済波及効果が高まっている。 ・道場の運営及び整備に関する計画策定等の支援体制や、ライセンスビジネス(財産の整理・企画、各種商標取得・管理・運営、情報発信体制)の確立と、その活用を図ることにより、空手関係団体の運営基盤が強化され、県内の各道場を支援する仕組みが構築されている。 ・資金融通システムにおいて、空手を中心とした仮想通貨による空手経済圏が構築され、クラウドファンディング(電子資金調達)などの多様な金融支援策が充実している。 ・空手を生業とする空手家のライフステージに合わせた、奨学金制度の創設や道場開設資金、運転資金及び事業拡大等に伴い必要となる資金の融資メニューが開発されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■県外・海外からの空手関係者来訪数【再掲】 *現状(令和元年度)：8,871人 *目標(令和9年度)：11,400人 ■県内道場数【再掲】 *現状(令和3年度)：364道場 *目標(令和9年度)：379道場 ■ライセンスを活用した商品数 *現状(令和4年度)：未実施 *目標(令和9年度)：1商品 	観光関係機関 空手関係団体 県(空手振興課)
イ 平和と伝統文化を学び体験できる観光地としての拠点形成	連携した自主事業の取組・開発							
ウ ライセンシングによる権利保護と活用	ライセンスビジネス等の展開							
エ ロールモデルの策定【再掲】	ロールモデルの検証による道場支援体制の充実							
オ 空手家の生活基盤の安定化に向けた金融を含む多様な支援策の検討	金融を含む支援策について実施方法、実施体制、内容等の検討							
	関係機関等との調整							
	空手専用ガイドの養成及び活用、受入体制の構築							
	市町村指定管理者 観光関係機関							
	空手関係団体 関係機関 県(空手振興課)							

第2期 沖縄空手振興ビジョンロードマップ

発行 2023年3月

発行者 沖縄県

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

文化観光スポーツ部空手振興課

TEL : 098-866-2232

FAX : 098-866-2208

E-mail : aa082500@pref.okinawa.lg.jp
